

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年7月19日 (2012.7.19)

【公表番号】特表2009-543800(P2009-543800A)

【公表日】平成21年12月10日 (2009.12.10)

【年通号数】公開・登録公報2009-049

【出願番号】特願2009-519633(P2009-519633)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 9/04 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02 Z N A

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 13/12

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 9/04

A 6 1 P 17/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年5月31日 (2012.5.31)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 6】

好ましい実施例において、ケロイド及び肥厚性瘢痕からなる群から選択される傷跡を治療または抑制する必要がある個体は、著しく色素沈着している個体であり、アジア系またはアフリカ系の血統の個体を含むがこれだけに限るわけではなく、ケロイド及び肥厚性瘢痕に影響されやすく、したがって、ケロイドまたは肥厚性瘢痕の発育を抑制するとともに、ケロイドまたは肥厚性瘢痕を治療する予防治療のために、本発明の方法から恩恵をうけることができる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

著しく色素沈着している個体が必要とする線維性疾患を治療および／または抑制するための薬剤の製造におけるポリペプチドの使用であって、ポリペプチドは、Y A R A A A R Q A R A (S E Q I D N O : 2 8 1) からなる共有結合性導入ドメインからなり、
ポリペプチドのC末端側にはさらにW L R R A S A P L P G L K (S E Q I D N O

： 3 0 0) からなり、S 残基がリン酸化される

著しく色素沈着している個体が必要とする線維性疾患を治療および / または抑制するための薬剤の製造におけるポリペプチドの使用。

【請求項 2】

個体が必要とするケロイド及び肥厚性瘢痕からなる群から選択される傷跡を治療および / または抑制するための薬剤の製造におけるポリペプチドの使用であって、ポリペプチドは、Y A R A A A R Q A R A (S E Q I D N O : 2 8 1) からなる共有結合性導入ドメインからなり、

ポリペプチドの C 末端側にはさらに W L R R A S A P L P G L K (S E Q I D N O : 3 0 0) からなり、S 残基がリン酸化され、

個体が著しく色素沈着している

個体が必要とするケロイド及び肥厚性瘢痕からなる群から選択される傷跡を治療および / または抑制するための薬剤の製造におけるポリペプチドの使用。

【請求項 3】

薬剤がケロイド及び肥厚性瘢痕からなる群から選択される傷跡を治療または抑制するために用いられ、それを必要とする個体が、アジア系またはアフリカ系の血統である請求項 2 に記載の使用。

【請求項 4】

薬剤が糖尿病性ネフロパシ、糸球体硬化症、I g A ネフロパシ、糖尿病性網膜症、黄斑変性、肝硬変、胆汁閉鎖症、鬱血性心不全、硬皮症及び腹部癒着からなる群から選択される一つ以上の線維性疾患を治療または抑制するために用いられる請求項 1 または 2 に記載の使用。

【請求項 5】

必要とする個体がアジア系またはアフリカ系の血統である線維性疾患を治療または抑制するための請求項 1 に記載の使用。

【請求項 6】

ポリペプチドが Y A R A A A R Q A R A W L R R A p S A P L P G L K (S E Q I D N O : 3 1 5) からなり、p S はリン酸化セリン残基を示す請求項 1 - 5 のいずれかに記載の使用。

【請求項 7】

著しく色素沈着している個体が必要とする医薬組成物であって、ポリペプチドは、Y A R A A A R Q A R A (S E Q I D N O : 2 8 1) からなり、

ポリペプチドの C 末端側にはさらに W L R R A S A P L P G L K (S E Q I D N O : 3 0 0) からなり、S 残基がリン酸化される共有結合性導入ドメインからなる、著しく色素沈着している個体が必要とする線維性疾患を治療および / または抑制するための医薬組成物。

【請求項 8】

個体が必要とする医薬組成物であって、ポリペプチドは、Y A R A A A R Q A R A (S E Q I D N O : 2 8 1) からなる共有結合性導入ドメインからなり、

ポリペプチドの C 末端側にはさらに W L R R A S A P L P G L K (S E Q I D N O : 3 0 0) からなり、S 残基がリン酸化され、

個体が著しく色素沈着している、ケロイド及び肥厚性瘢痕からなる群から選択される傷跡を治療および / または抑制するための医薬組成物。

【請求項 9】

必要とする個体が、アジア系またはアフリカ系の血統である請求項 8 に記載のケロイド及び肥厚性瘢痕からなる群から選択される傷跡を治療および / または抑制するための医薬組成物。

【請求項 10】

糖尿病性ネフロパシ、糸球体硬化症、I g A ネフロパシ、糖尿病性網膜症、黄斑変性、肝硬変、胆汁閉鎖症、鬱血性心不全、硬皮症及び腹部癒着からなる群から選択される一つ

以上の線維性疾患を治療または抑制するために用いられる請求項 7 または 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 1】

必要とする個体がアジア系またはアフリカ系の血統である請求項 7 に記載の線維性疾患を治療および / または抑制するための医薬組成物。

【請求項 1 2】

ポリペプチドが Y A R A A A R Q A R A W L R R A p S A P L P G L K (S E Q I D N O : 3 1 5) からなり、p S はリン酸化セリン残基を示す請求項 7 - 1 1 のいずれかに記載の医薬組成物。